



内閣府主催（仮称）東京オリンピック対談について

平素、当課の事業運営にご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。
下記のとおり、実施する運びとなりましたので、お知らせいたします。

記

<実施概要>

- 日 時** 令和元年11月5日（火）午後（時間調整中）
場 所 松戸市役所新館5階市民サロン
出席者 ①ミロスラフ・ツェラル氏（80歳）
スロベニア出身（旧ユーゴスラビア）
1964年東京オリンピック体操男子・あん馬金メダリスト
②鶴見 修治氏（81歳）
1964年東京オリンピック体操男子・あん馬・平行棒銀メダリスト
③西行 茂氏
スロベニアのホストタウン・福井県福井市副市長
④本郷谷 健次氏
ルーマニア、ドミニカ共和国のホストタウン・千葉県松戸市長

<経過>

内閣官房オリパラ担当部署から、「セノー株式会社」に1964年東京オリンピック体操あん馬の金メダリストと銀メダリストの対談を企画する中、当時の現存する体操器具を借用したいと相談がありました。

セノー様より、実施にあたって、本社のある本市で対談を実施してはと提案があり、本市のホストタウンの取り組み紹介の機会を頂きました。

なお、「セノー株式会社」に1964年に開催された東京オリンピックにおいて製造し提供した、当時の体操器具「あん馬」が現存することは、平成26年度松戸市役所における展示事業の実績によって、周知されたとのことでした。

【問い合わせ先】

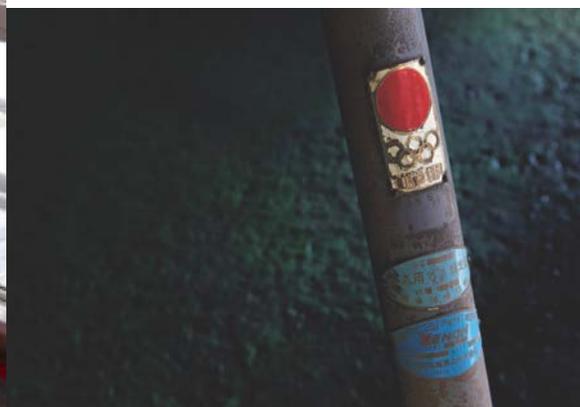
総合政策部 東京オリンピック・パラリンピック推進課
☎047-710-3081

【参考】

○1964東京オリンピックで使用された体操器具あん馬 展示事業

松戸市は、市を挙げて2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功を支えるとともに、国際交流、スポーツ文化向上、経済・観光振興、まちづくりなどを推進し、松戸のレガシー（未来への良い遺産）を次世代に受け継いで行くことが重要と考え、市内に本社がある総合体育用品メーカー「セノー株式会社」が1964年に開催された東京オリンピックにおいて製造し提供した、当時の体操器具「あん馬」が現存していることが分かり、同社の厚意により展示が可能となったことから、前回の1964年大会を回顧しつつ、2020年に向けて、市民並びに職員のオリンピック機運を高めるため、1964年に東京オリンピックで使われた「あん馬」を松戸市役所で当時の写真パネルとともに展示しました。

開催期間	平成27年3月2日（月）から13日（金）まで
会場	松戸市役所 新館1階連絡通路
来場者数	市役所来訪者10日間（約10,000人）
共催	公益財団法人 日本オリンピック委員会



（展示写真）



日本のスポーツ史上、最大のイベントであった
第1回オリンピック東京大会(1964年)、
男子体操のローマ大会に続く団体2連覇など、
全メダル史上最高の16個を獲得。

この東京オリンピックでは、体操用具の器具などを
購入受注したほか、37種目にあわせてセノー製品
が採用されました。

体操用具のすべても、一団のメーカーで単独で独占
したのはオリンピック史上初めてということもあって、
セノーの名を、星やかに印象づけました。

この展示されている(本人及び)は、唯一、当時使用され
た器具として残っているものです。

 **Senoh**